



あなたの声をリレーする



第16回花見山フォトコンテスト ふるさと部門 入選 「晴天万花」遠藤康彦 撮影地：雄国沼

CONTENTS

- 新年度 会長挨拶2P
- 2023年度 福島県看護連盟通常総会 プログラム3P
- おじゃまします!① 坪井病院4・5P
- おじゃまします!② 野口英世記念感染症ミュージアム6・7P
- 青年部 相双地区訪問/SPGs8~10P
- 新年交礼会11P
- 新春のつどい/研修報告12・13P
- 座談会14・15P



新年度のご挨拶



福島県看護連盟 会長 佐藤美重

2023年度、新しい門出を迎えられた会員の皆様、また新たな環境でお仕事をスタートされました皆様おめでとうございます。日本看護連盟は、本年2月より高原静子会長のものと新役員体制で活動が開始されました。福島県におきましても震災から12年が経過し、更なる復興の一助となるべく活動を続けて参ります。

さて、本年度の通常総会は6月30日(金)星総合病院メグレスホール(郡山市)にてハイブリットでの開催を予定しております。特別講演は、友納理緒参議院議員に近況をお話しいただく計画です。多くの皆様にご参集いただければ幸いです。

8月には、かねてより念願でありました、地方議員選挙に看護連盟から立候補者を推薦する準備を進めております。皆様のご理解とご協力を何卒宜しくお願いいたします。また、9月8日(金)・9日(土)リステル猪苗代におきまして、「看護の未来を創造する」をコンセプトに北海道・東北ブロック看護管理者・教育者等政策セミナーを予定しております。今回は、青年部、一般看護師、非連盟会員の皆様にも参加を拡大した企画となっております。多くの皆様のご出席をお待ちしております。

今後とも、現場を守って下さる病院・施設・地域の看護スタッフの皆様へ感謝し、看護協会と共に「現場の声」を届けて参ります。ご支援のほど宜しくお願いいたします。

新年度のご挨拶



日本看護連盟 会長 高原静子

福島県看護連盟会員の皆様には、日本看護連盟の事業にご理解とご支援を賜り感謝申し上げます。

今なお、医療や介護、地域の様々な場所で新型コロナ感染症と戦っている会員の皆様に心から感謝と敬意を表します。

今、「看護職員処遇改善評価料」の新設、「国家公務員医療職俸給表(三)」の改正と看護職には追い風が吹いています。「現場の声」を届ける私たち組織の声こそが、政治を動かす原動力となります。日本看護連盟と日本看護協会の連携はもとより、各都道府県看護連盟、看護協会が連携し、それぞれの地域で政治力を遺憾なく発揮することが重要になって参ります。緊密に意思疎通を図り、看護政策の実現のため、共に力を合わせ進んでまいりましょう。



2023年度 福島県看護連盟通常総会 プログラム

日時:2023年6月30日(金) 9:30~13:00 会場:星総合病院 メグレスホール

- 9:30 開会・挨拶
- 10:20 議長団選出
報告事項
- 1.2022年度 福島県看護連盟 通常総会報告
 - 2.2022年度 日本看護連盟主催 会議報告
 - 3.2022年度 福島県看護連盟主催 会議報告
 - 4.2022年度 福島県看護連盟・支部 活動報告
 - 3.2022年度 福島県看護連盟 決算報告
 - 4.2022年度 福島県看護連盟 監査報告
- 審議事項
- 第1号議案 2023年度 スローガン(案)
 - 第2号議案 2023年度 活動計画(案)
 - 第3号議案 2023年度 収支予算(案)
 - 第4号議案 参議院選挙対策
 - 第5号議案 福島県看護連盟 規約改正(案)
 - 第6号議案 2023年度 役員改選(案)
- 11:10 議長団解任
自由民主党福島県看護連盟支部(職域支部)報告
新役員・退任役員挨拶
綱領宣言
- 11:30 総会閉会
- 11:40 特別講演「参議院議員になって 1年間で私が国会に届けた声」
参議院議員 友納 理緒 先生
- 12:30 遠藤利子総決起大会
- 13:00 閉会

研修計画

2023年度

9月6日(水) 「知っておこう!特定行為研修のこと(仮)」
一般研修
講師 L-CUB訪問看護八山田 水野 菜美 先生
講師 星総合病院 戸崎 亜希子 先生

10月13日(金) 「病院機能に応じた外来看護の専門性とマネジメント(仮)」
管理者研修
講師 会津医療センター附属病院 山田 香代子 先生
講師 竹田総合病院 湯田 ひろ子 先生

11月17日(金) 「看護の近未来(仮)」
リーダー研修
講師 参議院議員 石田 昌宏 先生
講師 柘記念病院 阿久津 功 先生

青年部研修
12月19日(火) 青年部研修予定

福島県初の間質性肺炎・肺線維症センター

福島県がん診療連携推進病院、緩和医療で知られる坪井病院に、福島県初の間質性肺炎・肺線維症センターが開設されました。治療の難しい呼吸器疾患患者さんの診断から緩和ケアまで、専門性の高い診療が提供されていることをご存じでしょうか。

2018年1月、東邦大学医療センター大森病院呼吸器内科から杉野圭史先生が赴任され、積極的に患者さんを受け入れられています。今回は、坪井病院におじゃまして、センター立ち上げから今後の展望などについてお話を伺ってきました。



副院長兼呼吸器科部長兼間質性肺炎・肺線維症センター長 杉野圭史先生のお話し

難治性の間質性肺炎(IP)には、大学の水準かつ専門的に診療できる施設が必要です。郡山に赴任した直後から、地域の開業医の先生や専門外の先生方からご相談を受けることも少なくありませんでした。また、医師、看護師、理学療法士、作業療法士、薬剤師、検査技師、歯科衛生士、ソーシャルワーカー、管理栄養士がチームで関わることで治療成績は格段に上がります。精査入院時はクリニカルパスを活用し、迅速かつ適切な診療へとタスクシフトできています。「IPチームラウンド」や「カンファレンス」では多職種で連携を図ることが、スタッフの意思統一だけでなく患者さんの治療へのモチベーションも上げられていると感じます。そして「看護師外来」「薬剤師外来」を通じて療養と生活を守れていると思います。一緒に学んでくれた病院スタッフに感謝しています。

杉野先生のインタビューから

杉野先生の好きな言葉は、「継続は力なり」と「一期一会」だそうです。出会いを大切にしながら、常に学ぶ姿勢でふれずに根気強く継続していくことが、「患者さんを最期まで診切る診療につながる。」と言われたことが印象的でした。

現在、坪井病院は新病院の建築事業が進行中です。施設を近代化し、スタッフを増員しながら、今以上に地域を活性化していきたいという熱い想いを伺うことができました。

副院長兼看護部長 今泉昭子さんのお話し

間質性肺炎は難しい病気という苦手意識がありました。今回のセンター化で、杉野医師を中心に各専門職が力を発揮することで、繊細なオーダーメイド診療の可能性を実感することが出来ました。看護師のケアの幅も広がったと感じています。診断から最期の時まで、長い経過をたどる疾患だからこそ、専門的知識や経験を活かしカバーしあう必要があります。これまでの坪井病院で大切にしてきた看護や緩和ケアの理念が、今とても役に立っています。今後は、更に個々の専門性を高めスキルアップに努めていきたいと思っています。

慢性呼吸器疾患看護認定看護師 熊谷幸枝さんのお話し

チームの一員として専門性を活かしながら患者さんの対応にあたっています。診察前に行う看護師外来では、副作用など症状の把握や生活相談を受けています。また、患者さんの想いや要望などを聞き取り、看護師の視点で問題点を見だしています。そして最も重要なことは、その情報を各部門にシェアすることです。他職種間で連携し、それぞれが力を発揮する事が患者さんを支えることとなります。お互いをリスペクトしながら安心してチーム医療に参加できていることが、やりがいにつながっています。



取材を通しての感想

患者さんの視点に立ち、患者さんの想いを大切にしながら新しい分野に取り組まれている姿勢に感銘を受けました。「チームがあるからこそできた」という言葉が印象的で、チーム医療の大切さを改めて感じています。今回の取材は、私たちにとって、まさに一期一会。素敵な出会いになりました。



(広報 稲村)

野口英世記念感染症ミュージアム

今回、福島県耶麻郡猪苗代町にある、野口英世記念感染症ミュージアムと野口英世記念館に『おじゃま』してきました!!以前より、野口英世の生家や火傷を負った囲炉裏、床柱にナイフで刻んだ決意文、母シカの手紙や実験ノート、実際に使っていた顕微鏡などを展示していた野口英世記念館は幼少時から何度も訪れていた場所です。その記念館の隣に2022年7月2日に新たに野口英世記念感染症ミュージアムが開館しました。感染症に関する展示は、企画展としていくつかの博物館で行われていましたが、感染症に特化した常設のミュージアムは日本初です。新型コロナ感染症など人間にとって脅威となる感染症。これまで様々な感染症と人間のたゆまぬ努力によって克服してきた長い歴史を、このミュージアムでは知ることが出来ます!

感染症の過去と現在を未来につなぐミュージアム

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は、過去の感染症と人間の闘いの記憶を現代社会に呼び起こす出来事です。過去には幾度となく猛威を振るい多くの命を奪ってきた感染症。医学は、感染症の克服に挑んだ人間の英知と努力と共に進歩し、多くの感染症を制圧してきました。しかし、20世紀半ばから次々と新たな感染症が出現し我々の脅威となっています。こうした状況の中で、我々一人一人に出来ること、それは、感染症に対して『正しい知識に基づいて行動をする』ことです。野口英世記念感染症ミュージアムは、過去から現在まで人間が築き上げてきた感染症の知識と経験、さらに未来に向けた歩みを伝える場所です!!



感染症ミュージアム内の展示概要

第1室：感染症とは何か

Footpaths to Understanding of Infectious Diseases

目に見えない病原体、感染症が正体不明の病だった時代を経て、原因が解き明かされていく近代医学の黎明期から始まり、感染症の、基礎的な知識を伝えるエリアとなっています。

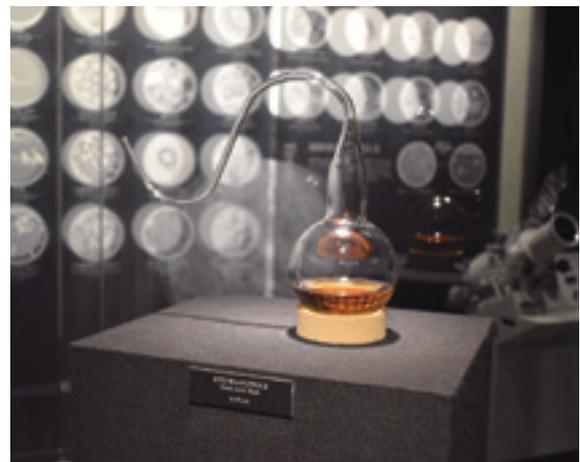
第2室：感染症と人間の闘い

Battle against Infectious Diseases: Past, Present and Future

感染症という脅威に人々がどのように対抗し、どのように乗り越えてきたか、9つの感染症を中心に伝えるエリアとなっています。

世界を駆け抜けた医学者 野口英世

1876年(明治9年)11月9日、福島県三ツ和村三城湯(現猪苗代町)に生まれた野口英世(はじめの名は清作という)は1歳半の時に囲炉裏に落ちて左手に大火傷を負いました。しかし、恩師・友人・家族の励ましと援助を受けその苦難を克服しました。左手の手術により医学の素晴らしさを実感し、自らも医学の道を志しました。アメリカのロックフェラー医学研究所を拠点に世界で活躍し、ノーベル賞候補にも挙がりました。1928年(昭和3年)西アフリカのアクラ(現ガーナ共和国)で黄熱病の研究中に感染して51歳で亡くなりました。(広報 高久)



2023.3.2

青年部、相双地区に行ってきました



2011年の東日本大震災から12年が経ちました。様々な報道がされる中、同じ福島県内であっても知らないことが多いのが現状ではないでしょうか？今回、当時の状況や復興の状況、現在の医療体制はどうかを知り、自分たちが役割を通して何ができるかを考えるため、青年部委員が相双地区へ行ってきました。復興や避難区域解除が報道される中、想像していたより現状は厳しくインフラ・生活環境が整っていないというのが正直な感想でした。そんな中でも復興に向けて働く方々、地域の医療を支える方々があり、福島県の青年部としてこのような現状を伝え続ける事や連盟の役割を果たす大切さを考えさせられる時間となりました。(青年部 安田)

ふたば医療センター附属病院

フライトナースから看取りまで

皆様、「ふたば医療センター附属病院」をご存知ですか？

少しずつ帰還がすすむ双葉地域で、復興を支える重要な柱・医療の拠点となるのが「ふたば医療センター附属病院」です。2018年4月に県立病院として30床で設立されました。双葉全域の救急医療を24時間体制で支えるだけでなく、住民の健康管理や、訪問診療・看護を通じて看取りにも関わっています。病院長も往診に出られるとのこと。スタッフ教育も充実されていて、救急のスキル、災害拠点病院としてのDMAT訓練、健康管理活動スキルなど多岐にわたっています。フライトナースから看取りまで出来る素敵なスタッフばかりだそうです。

この地域を支えて下さる職員の皆様、会津や福島市、いわき市、郡山市などから赴任され通勤されている方々に感謝したいと思った訪問になりました。

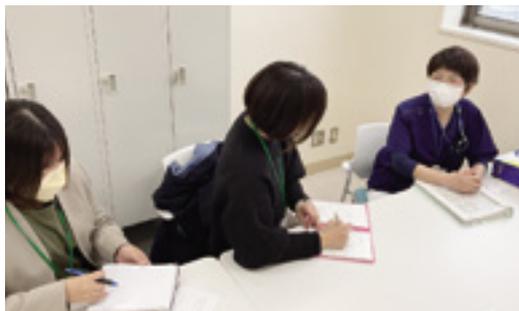
すっごくいい話

梅宮照子看護部長さんの心に残る看護を伺ったところ、1回/週で訪問看護をしていた患者さんを定期外来(1回/月)受診の際に機械浴を利用し病棟看護師の方が入浴介助を行っていた話をしてくれました。

双葉地域で、まだ入浴サービスが無かった時のお話しです。訪問スタッフから在宅で入浴できない患者さんのために、「病院のお風呂で入浴させてあげられないか」と相談があったそうです。話はトントンと進み、その患者さんは亡くなるまで数回入浴することが出来たそうです。このスタッフの気づきや配慮、そして職員皆が病院での入浴を賛成してくれたことがとても嬉しかったそうです。

病院長は「地域は病院、道路は廊下、訪問先のお宅は病室」と言われるそうです。「地域の患者さんの安心を支える」という理念が職員の皆様に根付いているのだと、とても感動した一日でした。

(青年部 吉田恵理子)



とみおかアーカイブミュージアム

富岡町の成り立ちと複合災害がもたらした地域の変化の伝承館

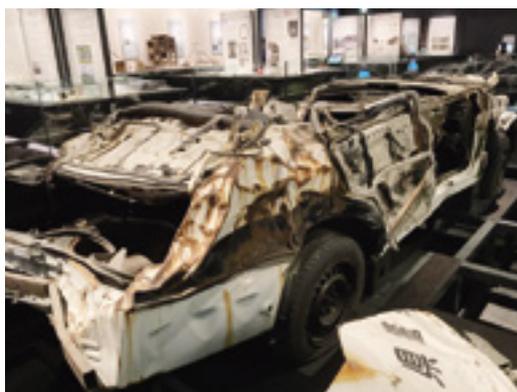
3月2日、福島県看護連盟青年部の仲間と相双地区に行って来ました。

訪問の道中では、手つかずの田畑や山林が点在していました。6号線沿線にも廃墟が沢山あり「あの時のまま時間が止まっている。」そんな印象でした。

東日本大震災は人々に深い傷を残しました。そして今もなお、原子力災害で故郷を失い、戻れない人たちがいる。このことを「同じ福島県民として」心に刻みたいと思った見学になりました。とみおかアーカイブミュージアムは、双葉医療センター附属病院の隣に立地し、富岡町の歴史や複合災害がもたらした地域の変化を記録、保存しているセンターでした。教育研修のバスも3台ほど来館していました。展示物の中でも3.11震災遺産で象徴的だったのは、津波にのまれたパトカーの残骸でした。最後まで人々に避難を呼びかけて、犠牲になった警察官の思いが伝わって来るようでした。また、展示された資料や動画などからは、富岡町が豊かで人々が暮らすに相応しい場所であったことが伝わってきました。

「富岡は負けん!」と書かれた横断幕に住民の強い思いを感じることも出来ました。放射能と人の心は目には見えません。しかしそこに生きて住んだ人たちの心と期待を形にして必ず帰還できるように、思いを寄せて行こうと思った訪問になりました。

皆様も、ぜひ来館してみてください。より良い未来を!みんなの力で! (青年部 吉田厚子)



富岡町 夜の森公園の桜
2023年、原発事故後初めて桜並木2.2kmを
全て観賞できるようになりました。

震災遺構 浪江町立請戸小学校

3時38分で止まった時計

請戸小学校は、津波による甚大な被害を受けながらも、奇跡的に全員無事に非難することができた学校です。震災の教訓を後世に残すための遺構として保存され、管理棟と展示室が整備されたのは2021年10月でした。

今回の私達の訪問では、浪江町出身の渡辺学芸員が案内して下さり、時に涙しながらの説明でした。瓦礫が散乱した教室や教務員室、根こそぎさらわれた調理室の炊飯釜やコンロ、津波が襲った時に留まったであろう時計などが、とてもリアルでした。このような中で全員生還できたのは本当に奇跡です。渡辺学芸員の静かな語り口の中にも熱いものを感じました。人は大災害を前にして非常に無力です。平時から自分の避難経路を把握しておくことの重要性を再認識した訪問となりました。ふるさとを思う人がいてくれるこの浪江の地に、早く皆様の笑顔が戻ってこれたらと、同じ福島県民として思えた時間でした。

(青年部 野崎)



青年部のSPGs



看護連盟青年部では「看護の明るい未来を目指すための青年部の8つのミッション」として「SPGs」を掲げています。SPGsとはSustainable Poli-Navi Goalsの略となり、8つのミッションはこの様になっています。

1. 青年部の基盤づくり
2. ネットワークづくり・顔の見える関係性の構築
★知り合おう・知ってもらおう
3. 青年部の人材活用・育成
4. 看護連盟と青年部の魅力の発信
5. 会員増に向けて仲間を増やそう
6. 広報戦略の強化
7. 未来を見据えた活動の推進
★看護の未来を創る
8. 次世代型選挙戦略の検討

<青年部より>

コロナの流行でなかなか交流の機会がありませんでしたが、今後は皆さんとの繋がりを深めていきたいと思います。青年部への研修依頼でも何でもいいので是非声をかけてください!

新年交礼会

1月28日(日)10:00~12:30 オンラインでの開催

講演1 テーマ「私の政治の原動力」
講師 衆議院議員 菅家 一郎先生

講演2 テーマ「どうなる! 2023年の日本と福島」
講師 参議院選挙 星 北斗先生

衆議院議員根本匠先生をはじめ、県内選出・看護系議員からたくさんご祝辞を賜り、県議会議員・関係団体、会員のみなさまなど多くの方にご参加いただきました。

はじめに、災害対策特別委員である菅家一郎議員より「首都直下型地震バックヤード構想とその具体的な推進について」と題してお話されました。首都直下型地震は大きな課題です。被災時の通信・医療・交通体制・「東京一極集中」を避けた災害対策が福島等を含めた地方経済の活性化に役立つのではと思いました。

次に、星北斗議員より、「議員1年目の活動・ふくしまの復興と医療について」をテーマにご講演いただきました。「政策では、1つ1つの問題を解決できるようあきらめず言い続ける」という前向きで強い言葉が印象的でした。

コロナ禍では様々な制限があり、日々の業務は状況に応じ柔軟に対応・調整しなければなりません。大変なことがあります。「患者さんのためにできることは何か」という強い想いで看護を提供していきたいと思えます。

(広報 有我)



2022年10月から

「診療報酬による看護職員の処遇改善」が始まりました。

令和4年度診療報酬改定において、地域でコロナ医療など一定の役割を担う医療機関に勤務する看護職員を対象に、10月以降収入を3%程度(月額12,000円相当)引き上げるための処遇改善の仕組みとして、「看護職員処遇改善評価料」が新設されました。令和4年10月より以下の対象医療機関において算定が可能となりました。「看護職員処遇改善評価料」算定を契機に、今後すべての看護職員の処遇改善に向けた第一歩となります。

日本看護協会資料より

看護管理者「新春のつどい」を開催

2023年1月6日に看護協会と共催で、看護管理者「新春のつどい」を看護会館みらいで開催した。県内看護管理者が65名参加した。「看護職員の処遇改善」をテーマに、参議院議員石田昌宏先生と日本看護協会常任理事の森内みね子先生より講演をいただいた。2022年10月から新設された「看護職員処遇改善評価料」についてや11月の医療職俸給表(三)を改正する人事院規則の交付についての話であった。(詳細はP11下段を参照ください)

「看護連盟の働きかけが医療職俸給表を動かした」との石田先生の言葉に勇気もらった。さらに、看護職のキャリアアップに伴う処遇改善の推進へ進んでいくことを期待したい。



国家公務員医療職俸給表(三)の級別標準職務表の改正を人事院が交付

目的は看護師のキャリアアップに伴う処遇改善の推進です。看護師の給与は、就職してしばらくは医師以外の他医療職と遜色ない水準ですが、30歳を過ぎる頃から給与がなかなか上がらなくなり、50歳代では他医療職と比べ、月に5～10万円程度低くなります。そのため、「寝たきり給与」と言われています。今回の見直しでは、看護師長クラスや高度な知識経験を持つ看護師の給与のランクを上げることになりました。看護師としての経験を積み、責任が大きな立場になると、それに見合って給与が上がる仕組みへと前進しました。人事院の発表に伴い、全国の医療機関や施設等が看護職の給与のあり方を見直し、看護の専門性と役割の重要性に見合った給与体系と処遇改善が進むことを期待しています。(石田まさひろメールマガジンVo10-231より)

表 改正前後の国家公務員医療職俸給表(三)級別標準職務表

	改正前	改正後
1級	准看護師の職務	准看護師の職務
2級	1.看護師の職務 2.保健師又は助産師の職務	1.看護師の職務 2.保健師又は助産師の職務
3級	医療機関の看護師長の職務	1.医療機関の副看護師長の職務 2.特に高度の知識経験に基づき困難な業務を処理する看護師の業務
4級	医療機関の副総看護師長若しくは副看護部長又は困難な業務を処理する看護師長の職務	医療機関の相当困難な業務を処理する看護師長の職務
5級	医療機関の総看護師長若しくは看護部長又は困難な業務を処理する副総看護師長若しくは副看護部長の職務	医療機関の総看護師長若しくは看護部長又は困難な業務を処理する副総看護師長若しくは副看護部長の職務
6級	特に規模の大きい医療機関の総看護師長又は看護部長の職務	特に規模の大きい医療機関の総看護師長又は看護部長の職務
7級	極めて規模の大きい医療機関の看護部長の職務	極めて規模の大きい医療機関の看護部長の職務

研修報告

研修名：県看護協会主催『看護職員の賃金制度の抜本的な見直しに関する緊急勉強会』

日時：2023年3月8日(水)13:30～16:30

テーマ・講師：①国家公務員医療職俸給表(三)の見直し内容と今後の対応について

日本看護協会常任理事 森内 みね子講師

②看護職の賃金改善の基本を考える

学習院大学名誉教授、学習院さくらアカデミー長 今野 浩一郎講師

③賃金制度見直しに必要な自施設の賃金に関する現状分析のポイント

労働政策部 看護労働課

グループワーク：「自施設の賃金見直しに向けて、管理者として出来ることは何か」

参加報告／看護連盟の立場で研修に参加させて頂きました。本研修は看護管理者だけでなく、事務長や人事部長などの参加もあり、今後を見据えた効果的な研修となりました。看護協会・連盟が、永年訴えてきた看護職員の処遇改善について、森内常任理事、今野名誉教授、労働課からのお話があり、「辞めない賃金」・「サービスの価値に見合った賃金」を獲得していくステップも示されました。一施設でも多くの病院や施設で看護職の給与見直しがなされることを期待してやみません。

会長コラム

『レジリエンスについて考える。』

最近、『レジリエンス』って言葉よく聞きますか？今年2月に日本看護協会福井トシ子会長が内閣総理大臣と厚生労働大臣あてに提出した『レジリエンスの高い保健提供体制を一G7広島サミットおよび保健大臣会合に向けた提言-』のニュースがありましたね。私が初めて「レジリエンス」というワードを意識したのは東日本大震災後です。元日本看護連盟副会長であった佐藤エキ子先生が、福島県で開催された管理学会の大会長を務められた時に話して下さったと記憶しています。

調べてみれば右記の内容です

レジリエンス(resilience)とは、「回復力」「弾性(しなやかさ)」を意味する英単語。「レジリエントな」と形容される人物は、困難な問題、危機的な状況、ストレスといった要素に遭遇しても、すぐに立ち直ることができる。

東日本大震災の経験は私達を本当に強くしてくれたと思います。

私はあの時、統括病棟師長として最上階の病棟で被災しました。受け入れがたいあまりの現実にも関わらず「このまま死んでも怖くない。」と冷静だったのは私だけではなかったと思います。夢中で行った患者さんの避難、壊れた病棟での夜中のカルテ探し、絶望よりも「今やるべきこと」に注力した仲間たちがいました。

私はあの日の感動を忘れません。それは、震災当日に準夜のスタッフが全員出勤してくれたことです。自分の家も被災しているし道路事情も大変だったはずですが。出勤後は患者さん達が避難した別の場所で夜勤をしてくれました。本当に頭の下がる思いでした。そしてまた、他病院の看護部長達からの差し入れのおにぎりの味も忘れられません。レジリエンスは先天的な能力ではないといいます。あの日の感動が私にレジリエンスの力を付けてくれたと感謝しています。

いろいろな力を身に着けて、自分の役割を果たしていこうと思う今日この頃です。(佐藤美重)

竹のように曲がってもすぐ戻る【回復力】
テニスボールのように凹んでも跳ね返すという【緩衝力】
新たな厳しい環境化でもやっていける【適応力】

愛する郡山を優しく元気に。

土屋病院：土屋繁之理事長、遠藤利子副院長

福島県看護連盟：清水千世副会長 聞き手：佐藤美重



佐藤

土屋繁之先生、遠藤利子副院長、本日はお時間を頂きありがとうございます。今回は地方行政への挑戦ということで、率直なお気持ちなど伺えればと思います。抱負と意気込みをお願いします。

遠藤

この度、土屋先生のご理解と、県看護連盟の支援を頂き、市政に挑戦させて頂く決意を致しました。43年間看護一筋で臨床現場に立ち続けて参りました。産休以外の長期休暇も取ったことはありません。郡山の地で結婚し、出産、子育て、そして仕事との両立では充実した時間だったと振り返っております。「看護の世界から地方行政に候補者を立てたい」という思いは、7年前に連盟の副会長を仰せつかった時からでした。もちろん、自分以外の若いどなたか？と思っておりましたが、このコロナ禍で苦しむスタッフをみて「待ってられない。」「後に続く未来の看護職のために今できる事をしたい。」と思った次第です。『看護の力で地域を元気にしたい!』その一語に尽きます。

佐藤

土屋先生は県医師会副会長というお立場、また病院理事長のお立場から、今回の挑戦をどのようにお考えかをお聞かせいただきたいと思います。

土屋医師

「入職当初から、いつ立候補するのかな？」と思っていました。地域社会や医療の現状が厳しくなる中、人々の健康を守りより良く生活するためには何といても政治の力が必要だと思います。ある看護学校の今年の入学者は今年の半分にも満たない数でした。医療スタッフ不足は待ったなしです。昨年、国政には星北斗前医師会副会長が挑戦して参議院議員に当選してくれました。

次は郡山市政にも医療系代表として出馬してほしいと思います。

佐藤

遠藤副院長は、大病院の看護部長、老健の副施設長、看護協会の理事、看護連盟の副会長、看護業務連絡協議会会長など多岐にわたってご活躍でしたが、持ち続けられてきた問題意識のようなものは何だったのでしょうか？

遠藤

やはり原点は、3交代での苦労や、働きながらの子育ての大変さがあったと思います。一方で「女性が元気なら、家庭や職場や地域は元気」ということもあります。女性には子供を産み育てる力、包み込む優しさ、看取れる強さがあると思います。男性でも女性でも力のある方はいます。しかし、力のない人や弱い人のそばに寄り添えるのは女性の方が得意なのではないでしょうか。自分自身、ずっと看護の道で育てて頂き、恩返しをする時が来たのではないかと考えています。健康で、子育てがしやすく、働きやすい、そんな街にみんなが集まって、元気で活力のある街、そんなモデルを郡山で作りたいと思っています。

佐藤

清水副会長からエールをお願いします。

清水副会長

私は、震災後から特に親しくさせてもらっています。遠藤さんは「常に問題意識を持っている人」と言えます。多方面から物事をとらえ、「解決したい」という意識の高い人だと思います。看護連盟のミッションだけでなく多くの方を幸せにできるのではないかと期待しています。連盟としても女性としても友人としても・・・勝利を確信しています。

佐藤

土屋先生からもエールをお願いします。

土屋医師

まずは、地域の問題を丹念に拾って欲しいと思います。出会いを大切に、出来ることに力を尽くすことが重要だと思います。出会った方々に感謝して、自分らしく挑戦してほしいと思います。応援しています。

遠藤

土屋先生から心強いエールを頂きました。不安が無いといえはウソになりますが、頑張って挑戦したいと思います。ありがとうございました。

佐藤

土屋先生、遠藤さん、清水副会長本日はありがとうございました。

連盟の永年の夢をかなえてくれる遠藤さんを私達も全力で応援して参ります。

皆様も宜しく願いいたします。

遠藤利子さんのご紹介

1958年4月16日生まれ/郡山市喜久田町在住

- 経歴
- (一財)太田綜合病院
附属太田西ノ内病院 看護部長
附属太田熱海病院 看護部長
附属介護老人保健施設副所長を歴任
 - (公社)福島県看護協会理事 郡山支部長
 - 郡山看護業務連絡協議会会長
 - 福島県看護連盟副会長
 - (医)慈繁会 土屋病院 副院長兼看護部長



第15回連盟クイズ

応募
待ってるよ!



野口英世の母、野口シカさんに関するクイズです。
シカさんの幼少時、祖父・両親が相次いで家を出、また幕末という世相で学校制度が確立していなかったため、近所の子供達が寺子屋に通うなか身体を壊した祖母や子守などをおこない教育を受ける機会がありませんでした。そのため満足に文字の読み書きが出来なかったそうです。年をとってから近所の住職に頼み込んで一から読み書きを教えてもらい、苦勞の末に国家試験に合格しています。さて、その合格した国家試験とはなんのでしょうか？



A: 看護師 B: 医師 C: 助産師 D: あん摩マッサージ指圧師

当選プレゼント

SAC'S BAR オリジナル 看護師さんと考えたバッグ



サロンドルヴァン ハンドバッグ レディース
2WAY ショルダーバッグ バスケース付き

コロナ禍で活躍する看護師さんを応援するために、看護師さんの毎日の生活やお仕事から感じる「こんなバッグがあったらいいな」を一緒に考え商品化されました。

※商品の売上代金の一部を看護師の支援に使われています。



応募方法 ● このページのQRコードからアクセスまたはハガキにて必要事項をご記入の上ご応募ください。

＜必要事項＞ ● 1.クイズの答え 2.郵便番号 3.住所 4.氏名 5.電話番号 6.勤務先

応募宛先 ● 〒963-8874 郡山市深沢一丁目2-10 福島県看護連盟 宛

締切 ● 2023年6月30日(金) 当日消印有効

当選発表 ● 賞品を発送した上で、次号の広報誌にお名前を発表します。

※当選者は福島県内に在住または勤務の方に限らせていただきます。会員・非会員は問いません。



第14回連盟クイズ当選者 応募総数120名

安齋 洋子 様 面川 智美 様 小山 陽子 様 佐藤 桃香 様 山田 寿典 様

●日本看護連盟スローガン



令和5年度
会員募集中!

正会員
年会費/7,000円

しゃくなげ会員(看護職OB)
年会費/5,000円

退職後も会員の継続をお願いします。

編集後記

4月になり、新年度の始まりです。昨年を振り返り、抱負や目標を立てることによって意識や行動も変わり充実した1年になります。「抱負」とは心の中に持っている計画や、計画を実行する決意のことです。「目標」は具体的に実現したいゴールに向けて目印を設定することです。時間の経過はあっという間です。理想を叶える為にも後悔にないように行動したいですね。

高久秀樹

●広報委員メンバー

委員長/稲村 真理子(公立藤田総合病院) 委員/有我 真弓(公立岩瀬病院) 委員/高久 秀樹(総合南東北病院) 委員/三瓶 華蓮(日東病院)